

## [24] セーシェル

### 主要経済指標等 (2014年)

●人口	9万人
●GNI総額	12.80億ドル
●GNI一人あたり	13,990ドル
●経済成長率	2.8%
●失業率	-
●対外債務残高 (2013年)	27.14億ドル
●援助受取総額 (支出純額) (2013年)	0.25億ドル
●DAC分類	高中所得国
●世界銀行分類	iv/高所得国

出典) WDI (世界銀行) 等。詳細は解説参照

表-1 我が国の対セーシェル援助形態別実績 (年度別)

年度	(単位: 億円)		
	円借款	無償資金協力	技術協力
2010年度	-	-	0.72(0.71)
2011年度	-	-	1.37(1.37)
2012年度	-	-	0.59(0.59)
2013年度	-	-	0.60(0.57)
2014年度	-	-	0.63
<b>累計</b>	-	40.44	22.37(17.61)

※脚注参照

### ミレニアム開発目標 (MDGs) 代表的な指標

	過去データ	最新データ
●目標1: 1日1.25ドル未満で生活する人々の割合	0.0%(1999)	0.3%(2006)
●目標2: 初等教育における純就学率	91.4%(1993)	99.2%(2013)
●目標3: 初等教育における男子生徒に対する女子生徒の比率 (男子を1とした時の女子の人数)	1.00人(1991)	1.01人(2013)
●目標4: 5歳未満児の死亡数 (1,000人あたり)	16.5人(1990)	14.2人(2013)
●目標5: 妊産婦の死亡数 (出生児10万人あたり)	-	-
●目標6: 15~49歳のHIV感染率 (100人あたりの年間新規感染者数の推定値)	-	-
●目標7: 改良飲料水源を継続して利用できる人口の割合	95.7%(1990)	95.7%(2015)

出典) Millennium Development Indicators (The Official United Nations Site for the MDG Indicators)

### 主要ドナーの対セーシェル経済協力実績 (2013年)

(支出総額ベース、単位: 百万ドル)

<b>1位</b> フランス	4.48	<b>2位</b> オーストラリア	1.82	<b>3位</b> 日本	0.55	<b>4位</b> 英国	0.49	<b>5位</b> 米国	0.23
----------------	------	-------------------	------	--------------	------	--------------	------	--------------	------

出典) OECD/DAC

## セーシェルに対する我が国ODA概要

### 1. 概要

セーシールの一人あたりGNIはアフリカ諸国において群を抜いて高いことから、有償資金協力、無償資金協力等は近年実施していないが、例外として二国間関係強化という戦略的観点から水産分野における無償資金協力を実施している。また、セーシェルは島嶼国であり、経済は脆弱で、気候変動や海賊問題の影響も大きいことから、近年、海賊対策支援、観光業に係る課題別研修及び気候変動・防災対策に係る技術協力を実施している。2015年4月には草の根・人間の安全保障無償資金協力の導入を決定した。

### 2. 意義

外部経済の影響を受けやすい観光業だけに依存するのではなく、セーシェル政府が取り組む豊富な水産資源利用等による経済多角化に資する支援は、「持続的成長」の観点から意義が大きい。

### 3. 基本方針

我が国は、工業、漁業、人的資源、海賊対策分野等での研修員受入れ等による技術協力を中心とした支援のほか、水産無償資金協力、気候変動・防災対策及び海賊対策の分野で支援を実施していく。

### 4. 重点分野

- (1) 水産分野における支援: セーシェル経済の多角化及び水産分野における二国間関係強化という観点から、水産資源活用や港湾整備など水産分野における支援を実施していく。
- (2) 気候変動対策: セーシェルは、小島嶼国の中でも特に小さな島々から形成され、気候変動に非常に脆弱であることから、気候変動による影響緩和のために、洪水や海岸浸食、再生可能エネルギーの導入等に対する支援を実施していく。
- (3) 海賊対策支援: セーシェルは、広大な領海をソマリア沖海賊から守るために、欧米及びインド洋の国々と連携し海賊取り締まりに取り組んでいることから、我が国は、国際機関を通じて支援する。

※注) 1. 年度の区分及び金額は原則、円借款及び無償資金協力は交換公文ベース、技術協力は予算年度の経費実績ベースによる。

2. 2010年~2013年度の技術協力においては、日本全体の技術協力の実績であり、2014年度の日本全体の実績については集計中であるため、JICA実績のみを示している。  
( )内はJICAが実施している技術協力の実績及び累計となっている。

表-2 我が国の年度別・形態別実績詳細（表-1の詳細）

(単位：億円)

年 度	円借款	無償資金協力	技術協力
2012年度	なし	なし	
2013年度	なし	なし	
2014年度	なし	なし	
2014年度 までの累計	なし	40.44 億円	22.37 億円(17.61 億円) 研修員受入 349人 専門家派遣 23人

注) 1. 表-1 注釈同様

2. 技術協力においては、2012年度以降に開始され2014年4月の時点で継続中の技術協力プロジェクト案件のみを掲載している。案件の〔 〕内は、協力期間。

## セーシェル

表-3 我が国の対セーシェル援助形態別実績 (OECD/DAC 報告基準)

(支出純額ベース、単位：百万ドル)

暦年	有償資金協力	無償資金協力	技術協力	合計
2010年	—	8.94	0.63	9.57
2011年	—	1.12	0.12	1.24
2012年	—	—	1.75	1.75
2013年	—	—	0.55	0.55
2014年	—	—	0.66	0.66
累計	—	41.25	21.39	62.63

出典) OECD/DAC

- 注) 1. 国際機関を通じた贈与については、2006年より、拠出時に供与先の国が明確であるものについては各被援助国への援助として「無償資金協力」へ計上することとしている。
2. 有償資金協力及び無償資金協力は、これまでに交換公文で決定した約束額のうち当該暦年中に実際に供与された金額(有償資金協力については、セーシェル側の返済金額を差し引いた金額)。
3. 有償資金協力の累計は、為替レートの変動によりマイナスになることがある。
4. 技術協力は、JICAによるもののほか、関係省庁及び地方自治体による技術協力を含む。

表-4 主要ドナーの対セーシェル経済協力実績

(支出総額ベース、単位：百万ドル)

暦年	1位	2位	3位	4位	5位	うち日本	合計
2009年	日本 9.06	フランス 2.31	カナダ 0.21	ドイツ 0.08	英国 0.06	9.06	11.78
2010年	フランス 33.69	日本 9.57	イタリア 8.31	スペイン 1.06	ベルギー 1.02	9.57	54.30
2011年	フランス 2.39	スペイン 1.66	日本 1.24	オーストラリア 0.88	ドイツ 0.58	1.24	6.93
2012年	英国 1.81	日本 1.75	フランス 1.56	オーストラリア 0.51	スウェーデン 0.17	1.75	6.03
2013年	フランス 4.48	オーストラリア 1.82	日本 0.55	英国 0.49	米国 0.23	0.55	7.63

出典) OECD/DAC

表-5 国際機関の対セーシェル経済協力実績

(支出総額ベース、単位：百万ドル)

暦年	1位	2位	3位	4位	5位	その他	合計
2009年	EU Institutions 11.98	BADEA 1.08	GEF 0.90	IAEA 0.13	UNFPA 0.05	—	14.14
2010年	EU Institutions 4.62	GEF 3.38	BADEA 3.11	IAEA 0.22	UNFPA 0.11	—	11.44
2011年	EU Institutions 6.84	BADEA 3.04	GEF 1.42	WHO 0.55	IAEA 0.16	0.26	12.27
2012年	EU Institutions 14.36	GEF 2.05	BADEA 1.87	WHO 0.47	AfDB 0.42	0.23	19.40
2013年	EU Institutions 11.37	BADEA 2.34	WHO 0.59	AfDB 0.40	IAEA 0.17	0.09	14.96

出典) OECD/DAC

注) 順位は主要な国際機関についてのものを示している。

表-6 実施済および実施中の開発計画調査型技術協力案件 (開発調査案件を含む) (開始年度が2010年度以降のもの)

案件名	協力期間
海岸侵食・洪水管理プロジェクト	11. 2~14. 3
離島マイクログリッド開発マスタープラン策定プロジェクト	14.10~16. 3

出典) JICA

表-7 2014年度実施協力準備調査案件

案件名	協力期間
マヘ島零細漁業施設整備計画フェーズ2準備調査	15. 1~16. 3

出典) JICA

主なプロジェクト所在図 (2012年度—2014年度)

ウガンダ、ケニア、セーシェル

